

棋苑囲碁基本双書

新手
新型
定石の解析

韓国国家代表チーム

棋苑図書

○韓国国家代表チーム●

【監督】

ユ チョンヒョク
劉昌赫九段

【コーチ】

チュミンファン キムソンリョン
崔明勳九段 / 金成龍九段

【技術委員】

イ チョンホ 모크진ソク
李昌鎬九段 / 睦鎮碩九段

【国家代表】

イ セドル 박지훈ファン 김모지 주철희 박용민 칸동연
李世亨九段 / 朴廷桓九段 / 金志錫九段 / 崔哲瀚九段 / 朴永訓九段 / 姜東潤九段

주호 박지훈 주호 김호민 진시 주정
趙漢乘九段 / 朴錫恩九段 / 趙惠連九段 / 金惠敏七段 / 陳時暎六段 / 崔精五段

나 안 김 이 김 박
羅玄五段 / 安成浚五段 / 金世東五段 / 李志賢四段 / 金美里三段 / 卞相壹三段

이 신 오 김 박
李東勳三段 / 申真婿二段 / 吳政娥二段 / 金彩瑛二段 / 朴泰姬初段

【育成軍】

김 류 한 안 신 김
金庭賢五段 / 柳秀沆三段 / 韓熊熙四段 / 安国鉉五段 / 申旻竣初段 / 金真輝二段

한 김 오 김 주 김 김 김 김 김
韓昇周二段 / 金侖映四段 / 吳侑珍初段 / 金明訓初段 / 崔暎讚初段 / 櫻珉準二段

오 박 박 송
吳長煜初段 / 朴鎮鎭初段 / 朴種勳初段 / 宋慧領初段



はじめに

2013年は韓国囲碁界において恥辱の一年であり、2014年上半年まで私たちは街灯のない暗い通りを歩いたといえます。中国が三星火災杯、LG杯など韓国主催の棋戦はもちろん中国主催の夢百合杯、春蘭杯など、すべての世界棋戦で優勝したことで、韓国の囲碁ファンがっかりさせてしまいました。

(財)韓国棋院は韓国代表チームの敗北の影を一掃するために、急いで強化促進し、行き詰った雰囲気を開き直そうとしました。本書は、韓国代表チーム発足後、選手たちが一つのチームになって一緒に歩んだ4ヶ月の過程を綴りました。訓練課程は過酷で忍耐を要するものでした。月曜日から金曜日まで休みの日はありません。そんななか、代表から離脱する選手が出だし、代表チーム2次選抜戦に参加しない選手も少なくありませんでした。しかし、劉昌赫ユ・チャンヒョク代表チーム監督の信念と覚悟は揺るぎなきものでした。「我々は長い道のりを歩んで行く。残りたい者だけ残れ。去るなら自ら去って行け。我々は最後まで歩み続ける。一緒に歩ける者だけ代表チームに残れ」。

韓国代表チームが乗船した韓国囲碁号はどこに走って行くのか、どんな暴風に遭うのか、終着点がどこになるかは唯一神のみぞ知ることでしょう。これを力強く陣頭指揮する監督劉昌赫ユ・チャンヒョク九段、すべてのプロセスを細かくアシストするコーチの崔明勳九段チ・ミンフン、金成龍九段キム・ソンリョン、代表発足を

企画して実行に移した梁宰豪（財）韓国棋院事務総長と代表チームを後援する文化体育観光部と（株）ウォンイク及びサイバーオロの後援で巨大な一隻の船が動いています。

この船を、私（趙恵連）は共に搭乗した一人の選手として、また、外から遠く眺める人の心境で見ることになりました。後輩たちに質問しまくり、研究会に出て写真も撮りました。若い棋士たちは自分の秘密を容易に明かしてはくれませんでした。

私が見る前に素早く検討を終わらせたり、石の手順を口だけで交換したりするのです。そんな掛け合いにきゃつきゃつと笑う日々が続きました。とにかく、あらゆる戦略で彼らの考えの一部を探り出し、韓国代表選手たちが頭を突き合わせて研究した秘技をこの本に収めました。

輝く瞳をして、優れた才能を持った若い選手たちは、碁盤の上に置いて見せたかと思うと、すぐに消してしまいます。今のこの知識と情報は、さらに発展・解析が進んで後の世代に伝わる貴重な研究材料になることは確かだったので、私はスマートフォンに多くの参考図を収めておこうと必死になりました。

本書に掲載された参考図は、数百個に及ぶ図のなかから最終結論となった完全版です。囲碁を愛する日本の読者の皆さんが、本書を技量向上に役立ててくださることを願っております。

○もくじ●

はじめに…………… 3

索引…………… 5

研究テーマ① アタリを保留すべきか?…………… 11

研究テーマ② 黒の反発に対する対処…………… 24

研究テーマ③ 「一立三析」について…………… 31

研究テーマ④ 星にツケられたときは?…………… 39

研究テーマ⑤ 奇妙なナラビ…………… 45

研究テーマ⑥ 変則に慌てずに…………… 54

研究テーマ⑦ マウスミスではありません…………… 64

研究テーマ⑧ そんな挑発してもいいの?…………… 74

研究テーマ⑨ シマリの布石の消しについて…………… 85

研究テーマ⑩ 小目からの展開…………… 91

研究テーマ⑪ 日本も復活を狙っている…………… 99

研究テーマ⑫ シチヨウアタリを準備…………… 106

研究テーマ⑬ 大型定石が布石に及ぼす影響…………… 115

研究テーマ⑭ ヒラキにカタツキ…………… 126

研究テーマ⑮ 黒と白が逆の場合…………… 139

研究テーマ⑯ 未完成の定石…………… 145

研究テーマ⑰ 定石は日々進化…………… 158

研究テーマ⑱ 二間バサミに対する突進…………… 166

研究テーマ⑲ シチヨウが不利なときの処理…………… 172

研究テーマ⑳ 斬新な大ゲイマ…………… 180

研究テーマ㉑ 中国流布石の別の進化…………… 185

○エピソード●

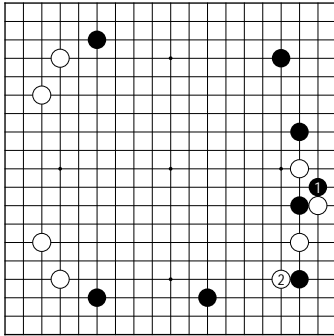
「囲碁、強くなる方法」…………… 71

「李昌鎬九段と全体研究会」…………… 156

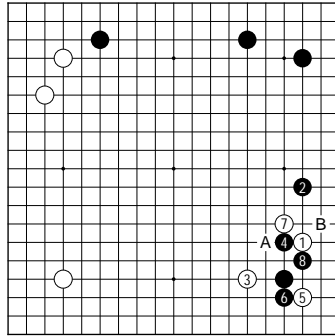
「限らないベテラン棋士の情熱、徐奉洙九段」…………… 178

「虎監督、実は思いやりのある優しいお兄さま 劉昌赫九段」…………… 200

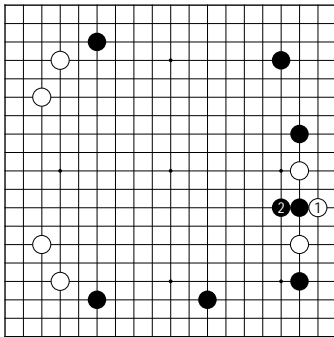
索引



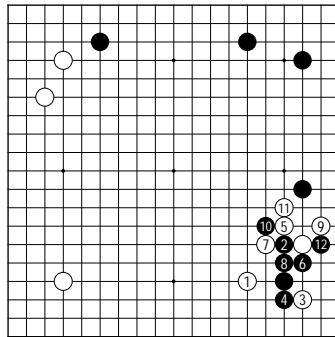
▽研究テーマ④ (p、39)



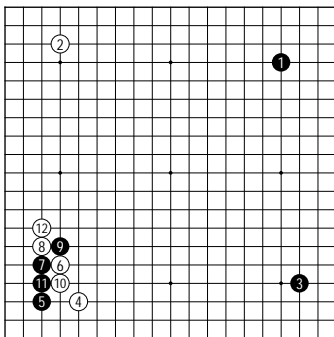
▽研究テーマ① (p、11)



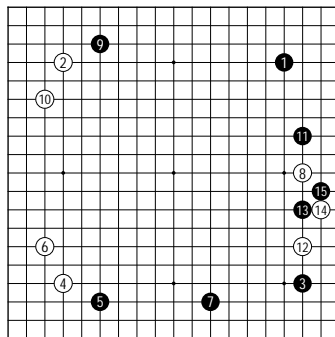
▽研究テーマ⑤ (p、45)



▽研究テーマ② (p、24)

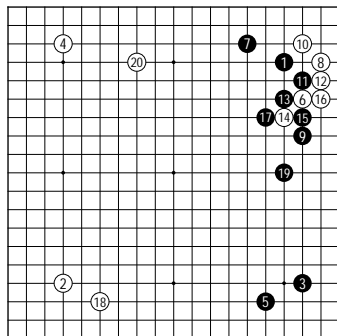


▽研究テーマ⑥ (p、54)

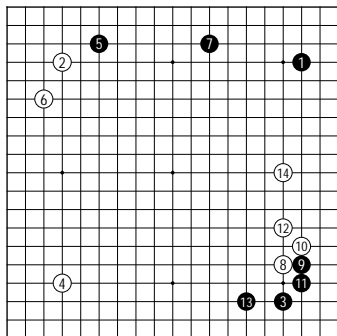


▽研究テーマ③ (p、31)

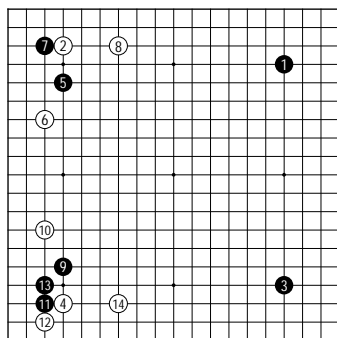
索引



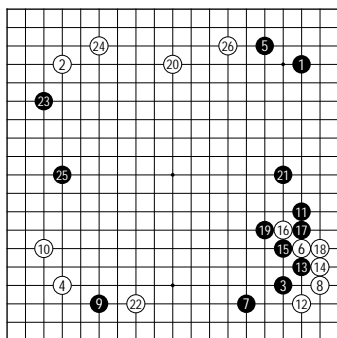
▽研究テーマ⑩ (p、91)



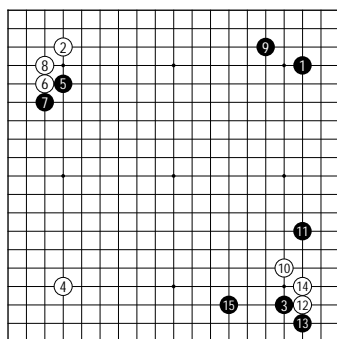
▽研究テーマ⑦ (p、64)



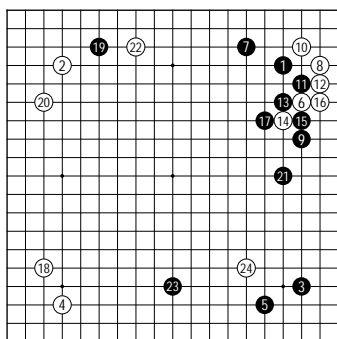
▽研究テーマ⑪ (p、99)



▽研究テーマ⑧ (p、74)

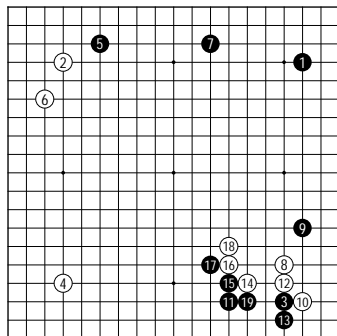


▽研究テーマ⑫ (p、106)

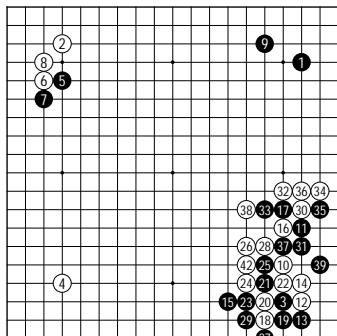


▽研究テーマ⑨ (p、85)

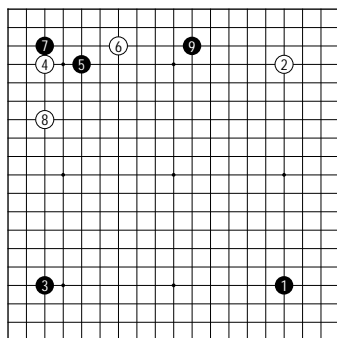
索引



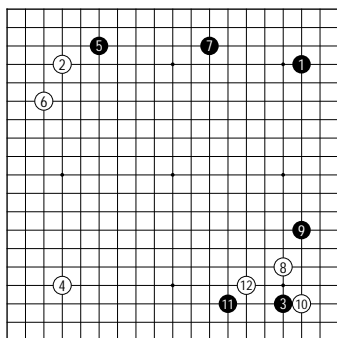
▽研究テーマ⑬ (p、145)



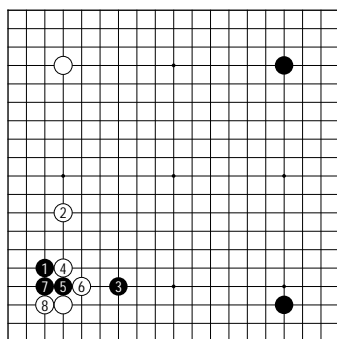
▽研究テーマ⑬ (p、115)



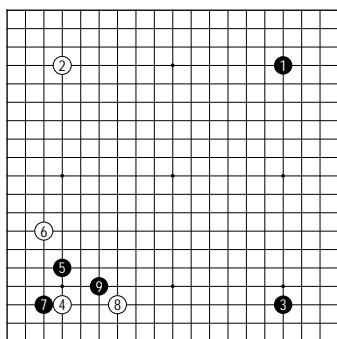
▽研究テーマ⑬ (p、158)



▽研究テーマ⑬ (p、126)

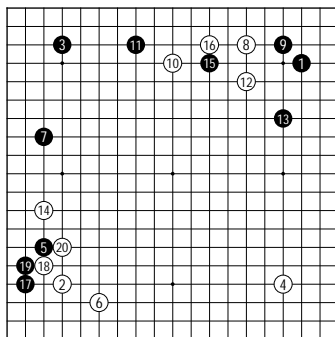


▽研究テーマ⑬ (p、166)

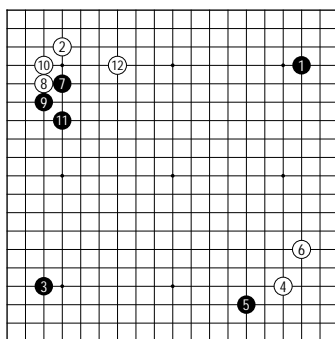


▽研究テーマ⑬ (p、139)

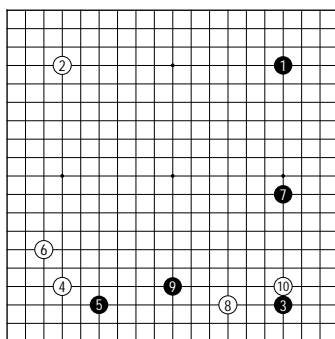
索引



▽研究テーマ⑱ (p、172)



▽研究テーマ⑳ (p、180)



▽研究テーマ㉑ (p、185)

「Kukgadaepyoyeonguhe report 1 Shinsushinhyongpyon」
ByKukgadaepyoteam

Copyright©2014 by Kankokukiin
Originally published in Korea by Kankokukiin
Japanese Translation Copyright© 2016 by Kientosho CO, LTD.
arranged through Jetticks CO, LTD.

----- アタリを保留すべきか？ -----

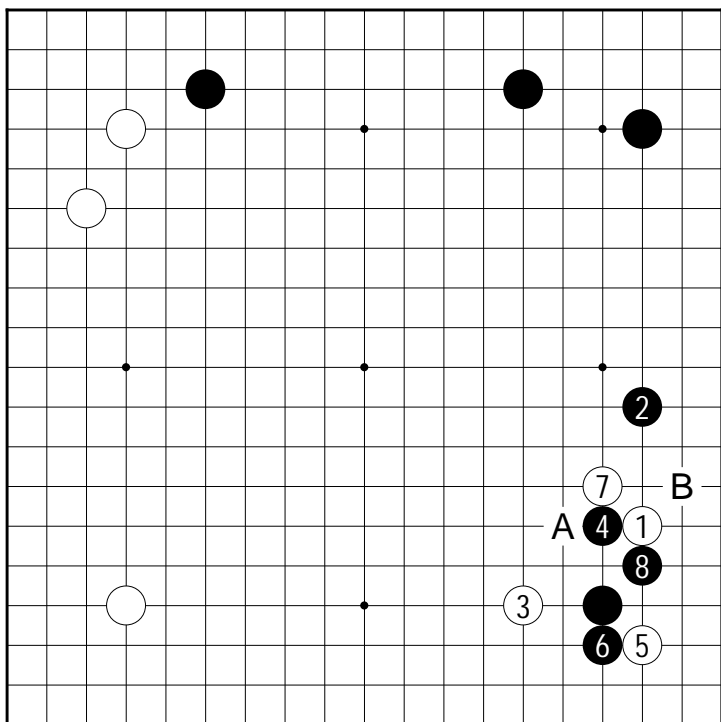
研究テーマ①

右下隅は最近の実戦に頻繁に出てくる定石の一つです。

黒8のあと白の悩みはAのアタリを打つか、単にBとカケツぐかです。

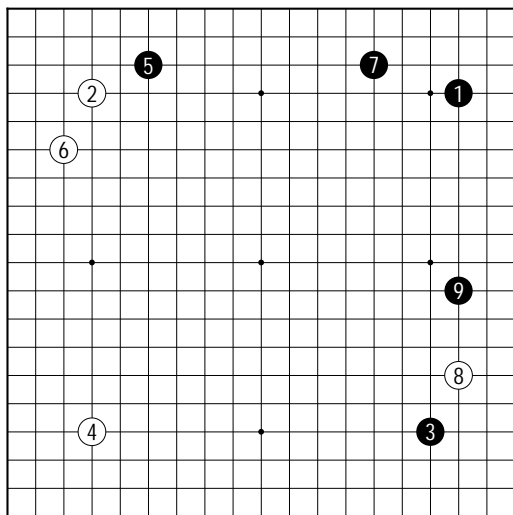
果たしてどちらが正着なのでしょうか。

韓国代表研究会の最初の研究テーマです。



1図(経過図)

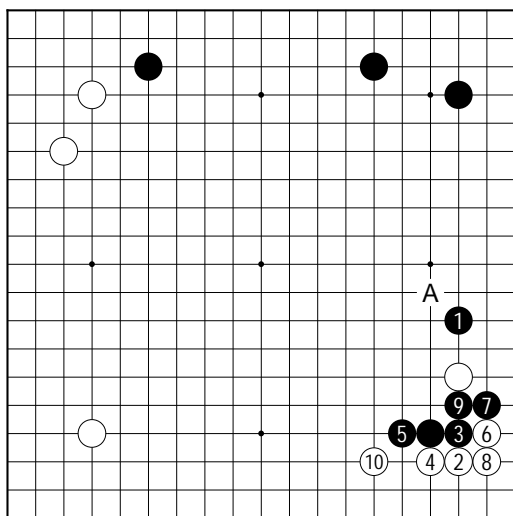
場面図までの経過手順で注目すべき点は、黒7の大ゲイマジマリです。右下隅は白8のカカリに、黒9と二間にハサんだ場面です。



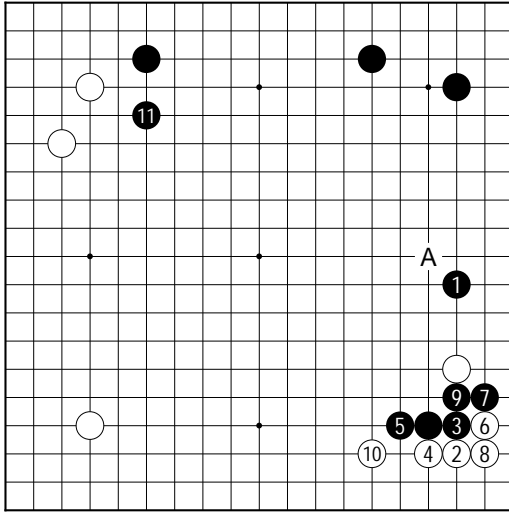
1図

2図(一間バサミは?)

1図の黒9で1と一間にハサむのは、白2の三々以下10までで定石が一段落したあと、白Aのカタツキが残る点が黒不満です。この消しの急所が残るため、黒は勢力拡大が悩ましくなります。

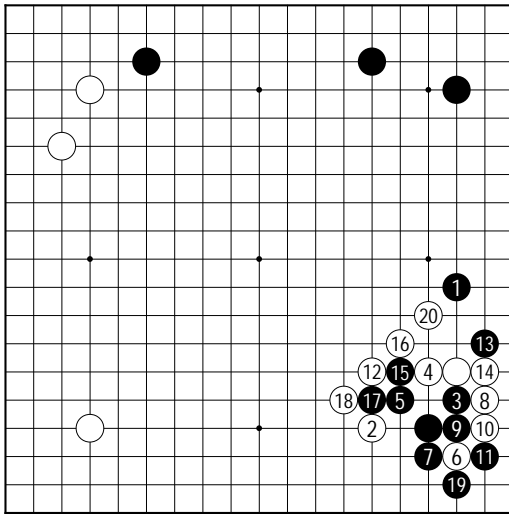


2図



3図

3図（黒、満足）
 黒1の二間バサミなら白2と三々に入られても、白10までの結果は黒に不満がありません。白Aのカツキが一間バサミのときに比べて、魅力的ではないためです。

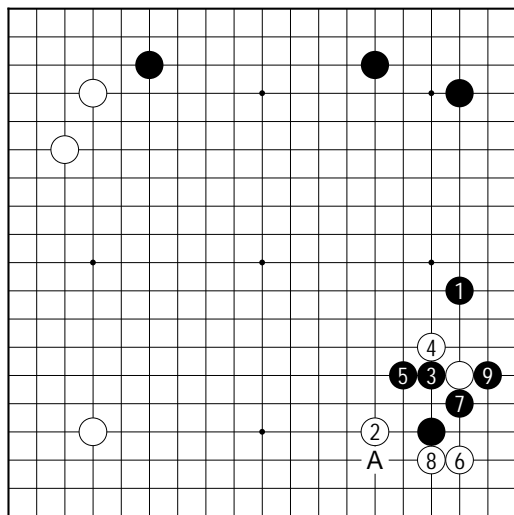


4図

4図（過去の流行手法）
 本図は約5年前に流行した型です。白2の両ガカリに黒3とコスミツケて、白20までとなる進行は、白が打てるという評価です。

5図(黒、厚い)

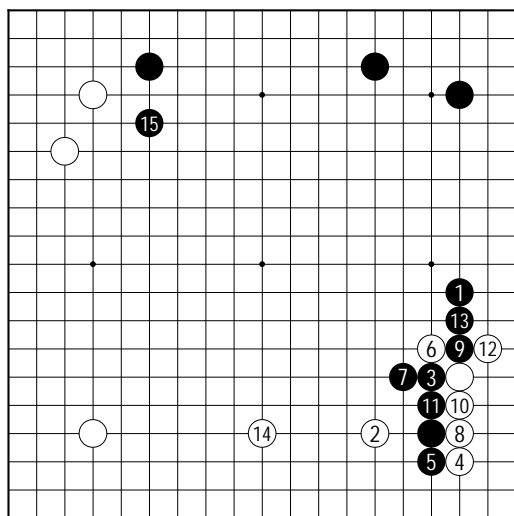
白4のハネは6、8と隅を占めるための定石選択ですが、黒9までは黒が厚いワカレとされています。黒Aの狙いが残る点が白不満です。



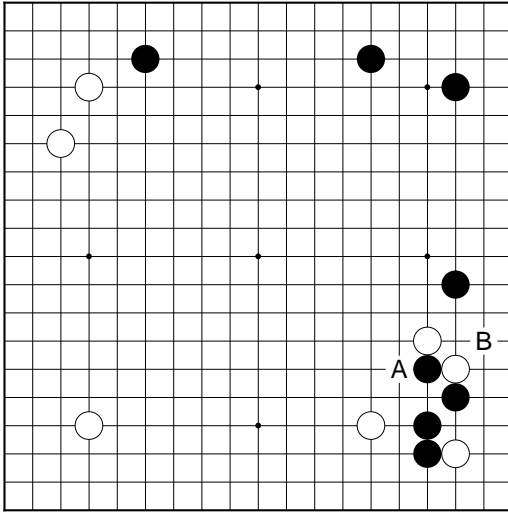
5図

6図(定石)

そこで、先に白4と三々に入る手が打たれるようになりました。黒5のとき、ここで白6とハネます。黒7のノビなら白14までで定石が一段落。先手を取った黒は15と模様を広げることになるでしょう。

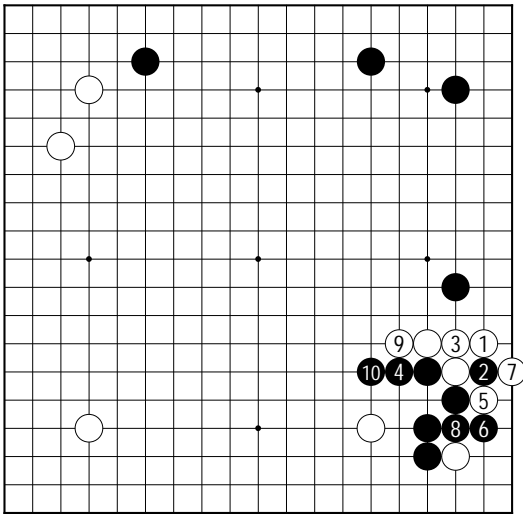


6図



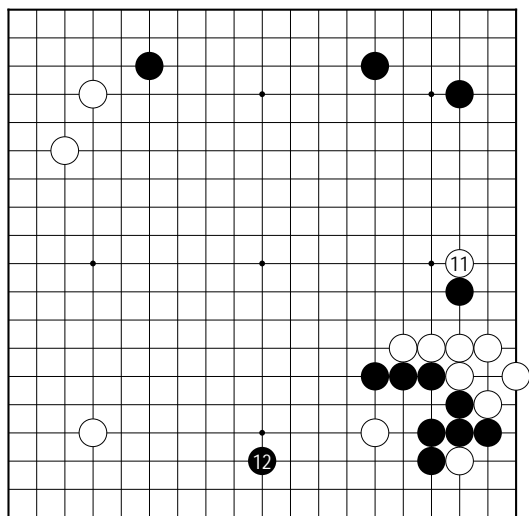
7図

7図（正着は？）
 本題に戻って、AとBの良し悪しを見てみましょう（以前はAとBの二つとも打てるとされてきました）。



8図

8図（単にカケツギ）
 単に白1（7図B）とカケツいだ場合の変化から見ていきましょう。黒10までの進行は、これまで定石とされていた手順です。

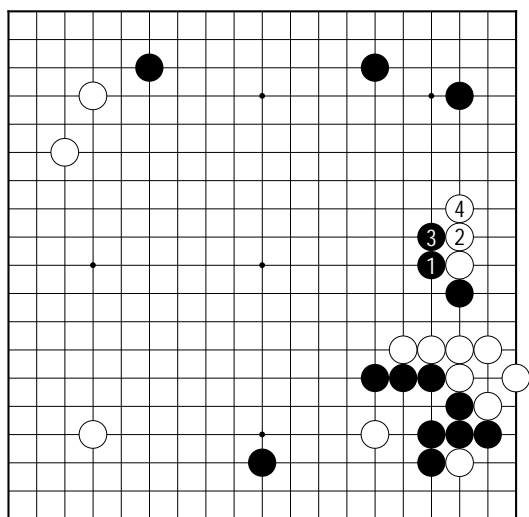


9図

9図 (サバキの手筋)

8図のあと、白11のツケはサバキの手筋です。黒は12などと下辺に回って一段落です。

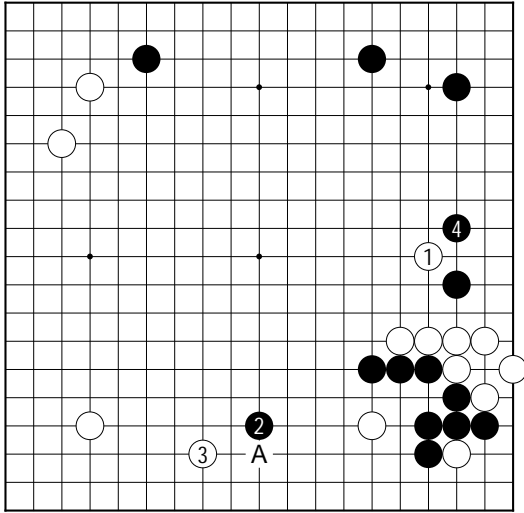
この結果はどちらが良いのでしょうか。



10図

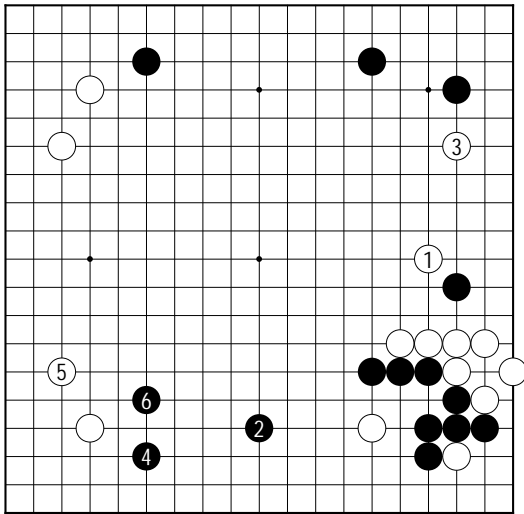
10図 (狙い)

9図のあと、黒1のハネから3と押す狙いが残ります。黒は外勢を築く意図です。黒が厚くなることを嫌って、9図のあと白が右辺にもう一手かけるのも、足が遅くて気乗りしません。9図は黒が良い結果といえます。



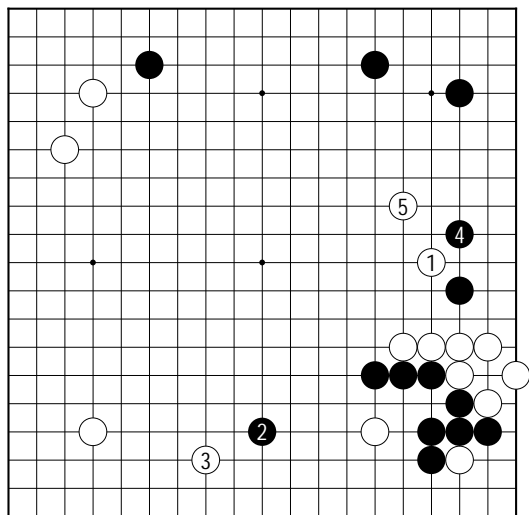
11図

11図（黒2がポイント）
 9図の白11では1とカケる作戦も考えられます。今度は黒Aではなく、一路高く黒2と打つのがポイントとなります。白3には黒4と右辺に回ります。



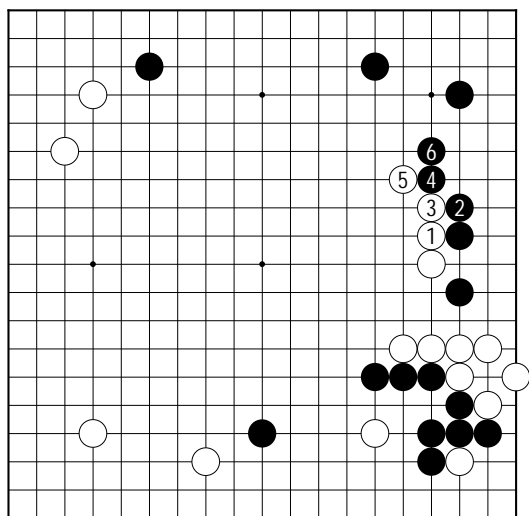
12図

12図（雄大な模様）
 黒2に白3などと右辺に回れば、黒4のカカリが絶好点。白5に黒6とトンで、下辺の黒模様が雄大です。このあと白の打つ手が難しく、黒の流れが良い進行です。



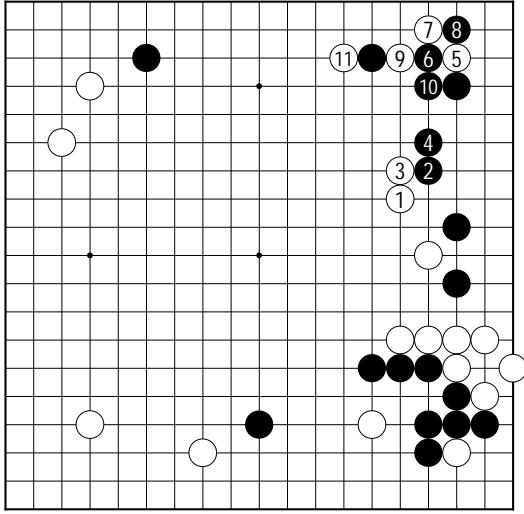
13図

13図（白5が成立するかどうか）
 したがって、黒2に白3は必然です。さて、
 焦点は黒4のとき、白5のケイマが成立するか
 どうかです。



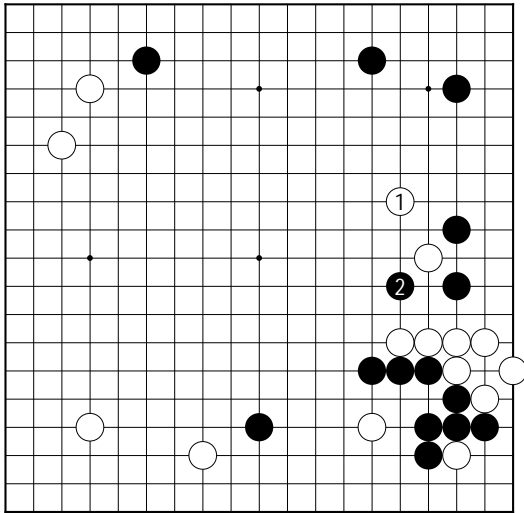
14図

14図（黒、満足）
 なお、13図の白5で1、3の押しは俗手。黒
 6まで、右辺の黒地を固めるお手伝いです。白
 1から5と外側に石を持ってきても、白は薄い
 形で厚みとはいえませぬ。



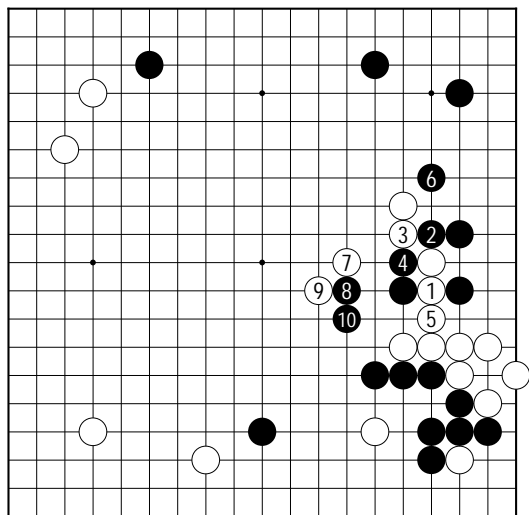
15図

15図 (白の意図)
 白1 (13図白5) の意図は、黒2と受けても
 らうことです。白3の押しを決めて5の様子見
 を放つのが白の狙い。黒6には白7から11とツ
 ケる味が残ります。こうなれば、白も打てる進
 行です。



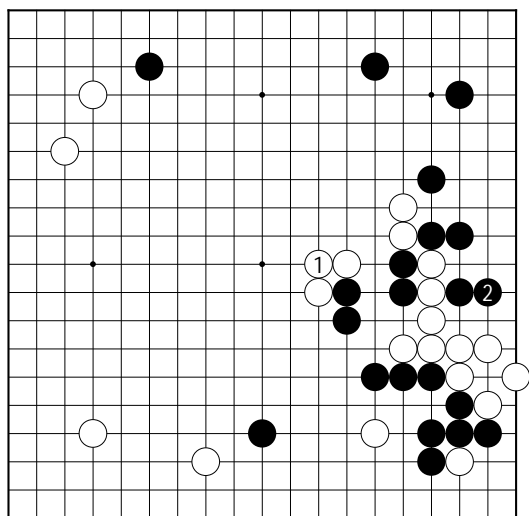
16図

16図 (金志錫九段の研究)
 しかし白1のとき、黒2と反撃する手があり
 ます。この手は金志錫九段の研究により発見さ
 れました。続いて……



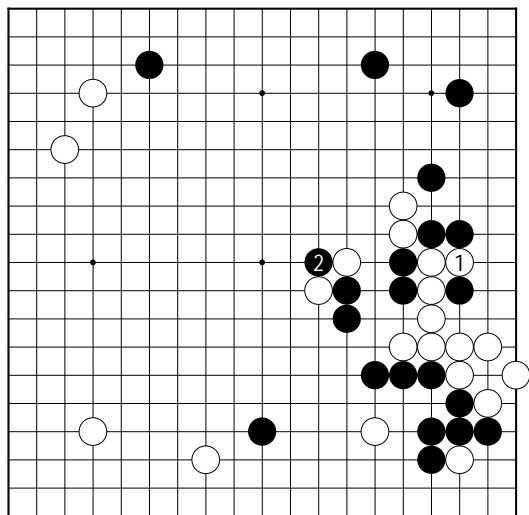
17図

17図（黒、いっばいの頑張り）
 白1の出には黒2、4と切断し、白5のツギには黒6と右辺を受けます。白7とかぶせて白の流れが良いようでも、黒8、10とツケノビて困っているのは白のほうです。



18図

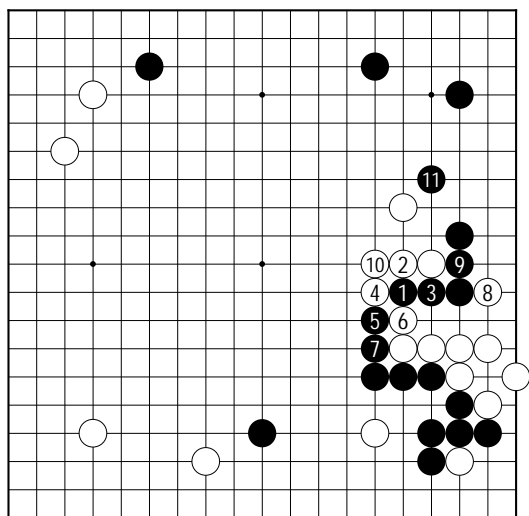
18図（白、死に）
 17図に続いて白1のツギなら、黒2とサガつて右辺の白は眼がなくなります。



19図

19図 (痛烈な切断)

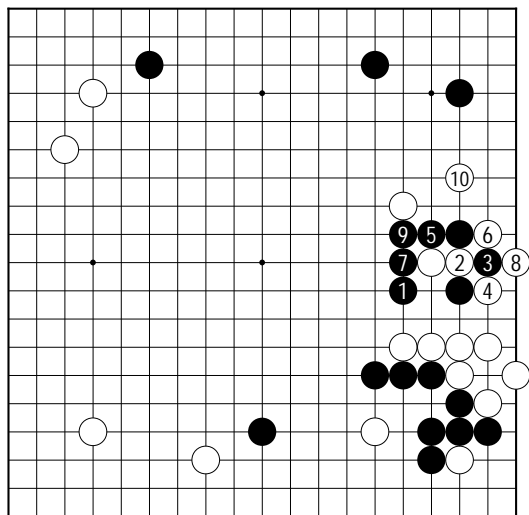
18図の白1では1と右辺を生かすよりありませんが、黒2と切られて白が苦しい格好です。



20図

20図 (黒、面白い)

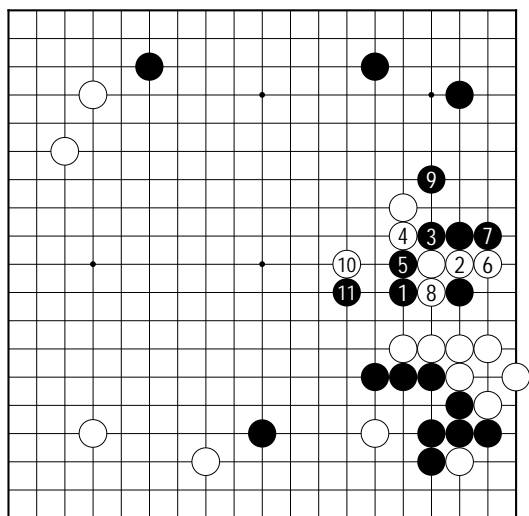
黒1に白2なら、黒は3とツグ一手です。白4には黒5と白を分断します。白は6から8と生きるくらい。白10に黒11と受けて、黒が面白い結果です。白は中央の一団が重く、処理が大変です。



21図

21図 (白、良し)

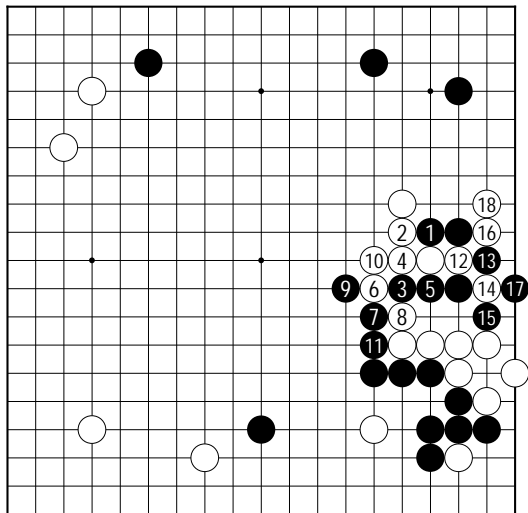
最後に調べる変化は白2の出です。この手に対して黒3とオサえるのは失着です。白4の切りが好手で、以下10までの結果は白良しです。



22図

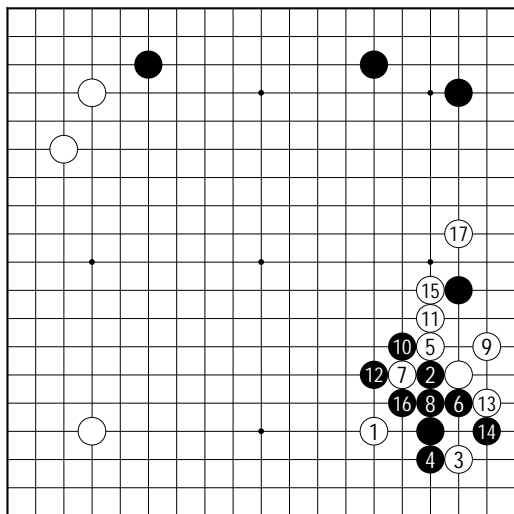
22図 (黒、活発)

白2には黒3の押しが適切な応手です。白4には黒5と切る一手。以下黒9までは必然です。白10のケイマに黒11とツケて、黒が活発な進行です。



23図

23図 (黒、大変)
 黒1から3と打つのは手順前後です。黒1、白2の交換を決めたことで白12、14の出切りが成立してしまい、白18まで黒が苦しい形となります。



24図

24図 (結論)
 以上のことから、単にカケツぐのは白に良い結果が出てきません。したがって、図のように白7(7図A)のアテを決めてから9とカケツぐのが正しい手順です。白17までは定石進行です。

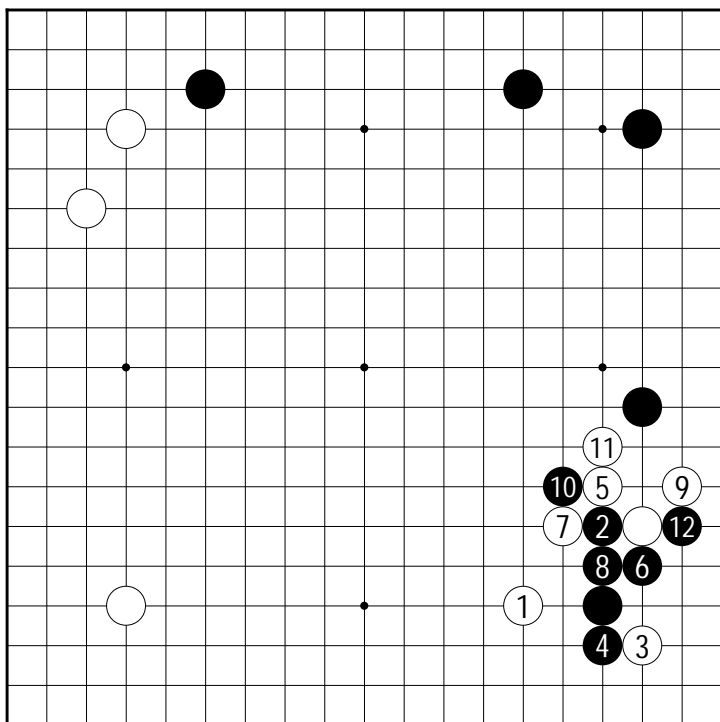
----- 黒の反発に対する対処 -----

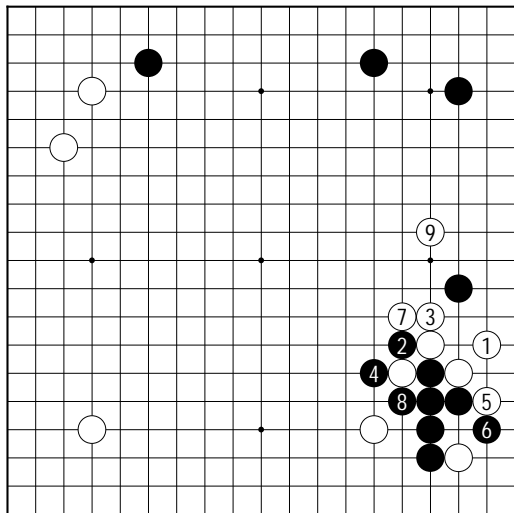
研究テーマ②

最初の研究テーマから派生した変化です。

白11のとき、黒12とアテてきました。

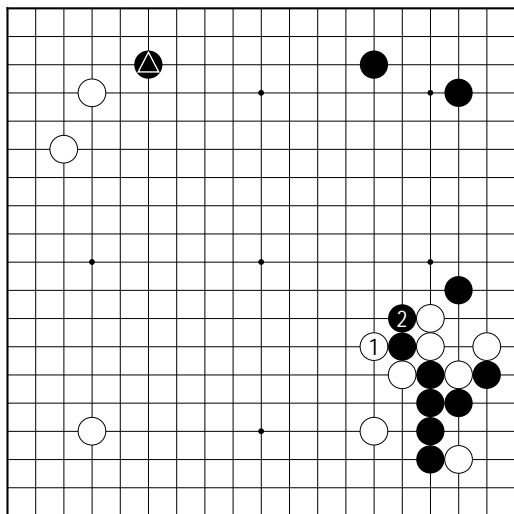
黒の反発に対する白の対応策を調べていきます。





1図

1図（反発の理由）
 黒が反発した理由から調べる必要があります。白3に黒は4とアテるのが普通ですが、白5のハネを利かされるのが痛いところ。白9までは普通の進行ですが、場面図の黒12は、白5のハネを利かされるのを嫌っての反発です。

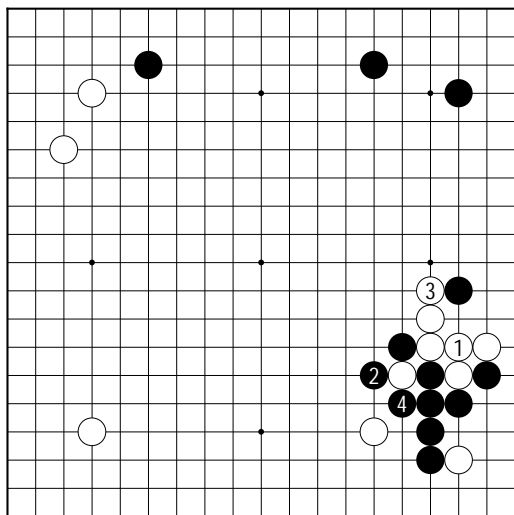


2図

2図（シチヨウアタリ）
 黒が中央に打たなかつたので、白としては1と黒一子をシチヨウに取りたいところ。しかし、今の局面では▲がシチヨウアタリになるためうまくいきません。この図は却下です。

3図 (利かされ)

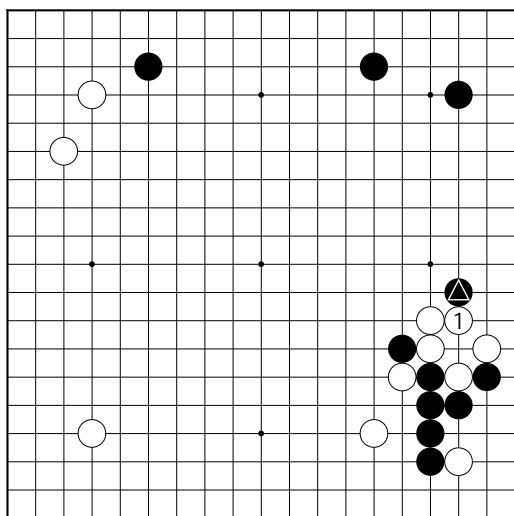
かといって、白1とツグのは利かされで耐えられません。黒4までの結果は、1図と比べて白損です。



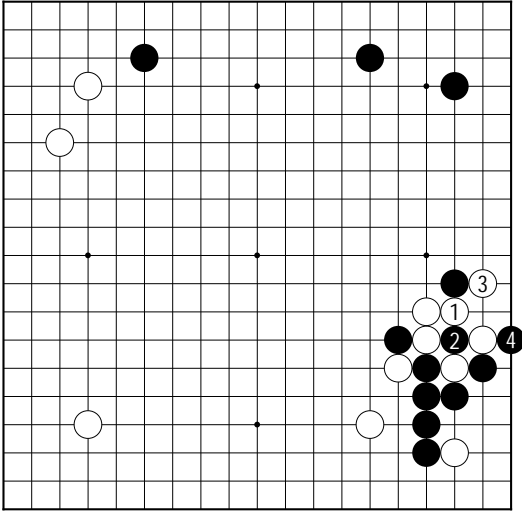
3図

4図 (正しい対応)

白1と受けるのが正しい対応です。▲の石を弱体化させながら、隅のコウを狙っています。

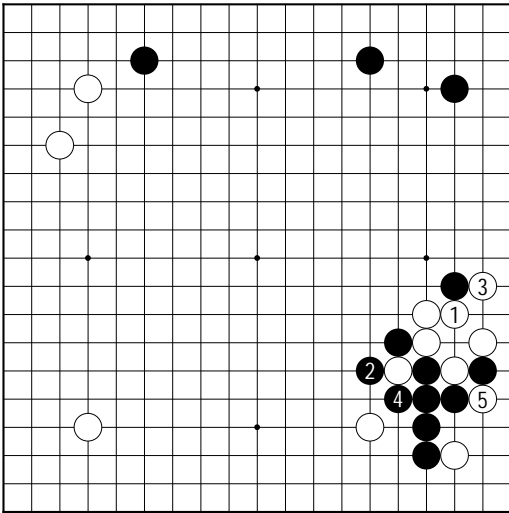


4図



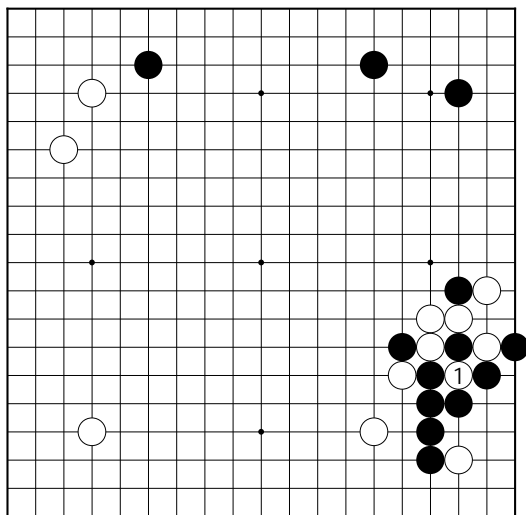
5図

5図 (研究)
 白1に黒2とコウを取り、白3のときすぐに黒4とアテるのが、研究会で研究された手順です。



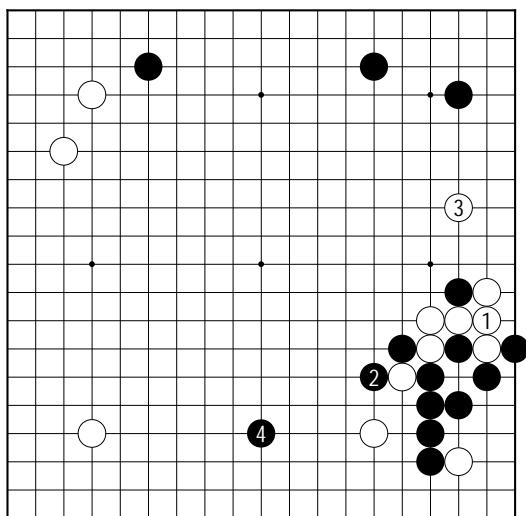
6図

6図 (黒、負担)
 白1のとき黒2、4と中央を連打するのは、良い結果になりません。白5と切られて、黒に負担の大きいコウです。



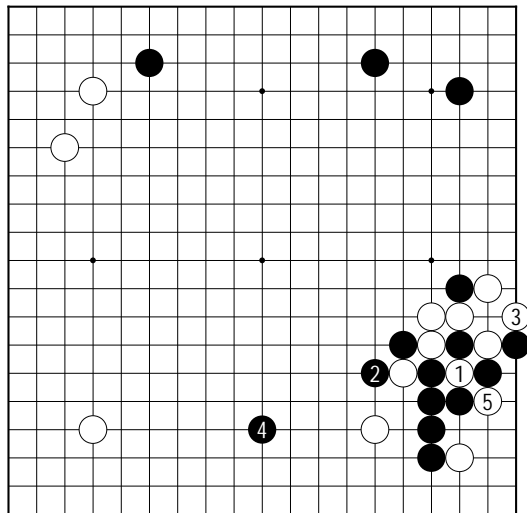
7図

7図（コウが局面の焦点）
5図に続いて、白は1とコウを取る一手です。以降はこのコウの攻防が、局面の焦点になります。



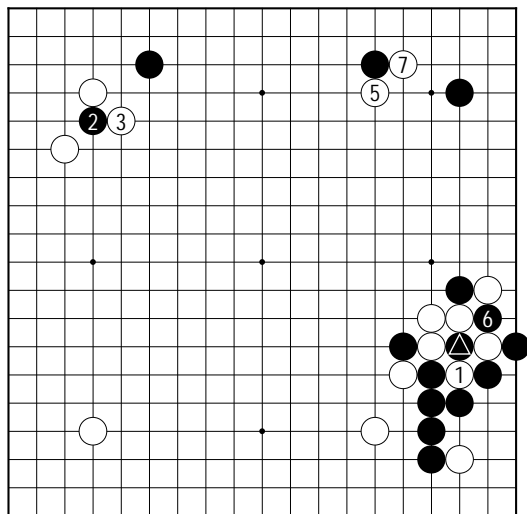
8図

8図（ひどい利かされ）
7図の白1で1のツギはひどい利かされです。黒2のアテに白3のヒラキが省けず、黒4に回られては白が良くない進行です。黒4は互いの勢力拡大の絶好点。白石と置き換えてみればその価値の大きさが分かるでしょう。



9図

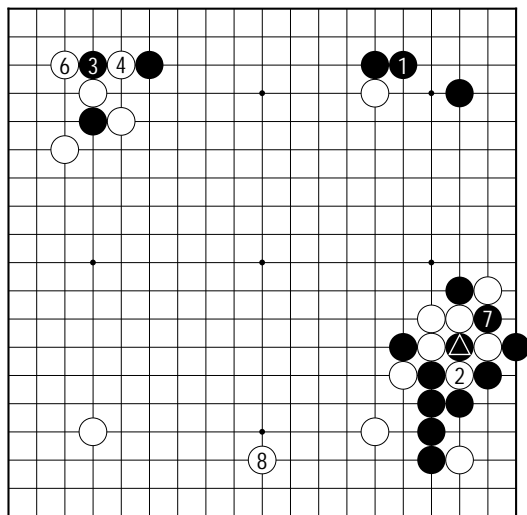
9図（実利の損が大きい）
 白1のコウ取りに黒2、4と下辺に打つのは、白3、5と連打されて黒は実利の損が大きすぎます。そのため黒としても、コウは譲れない状況です。



10図

10図（コウ争い）
 黒と白、双方コウダテが多くありません。白5のコウダテに対して、黒6と抜けば簡明な進行です。しかし白7までは、白十分という研究会の結論です。

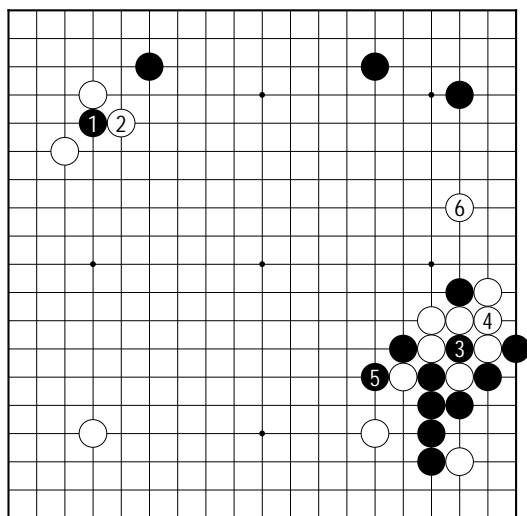
4 (▲)



5 (△)

11図

11図（フリカワリ）
 10図の黒6で1と受ければ、白2とコウを取ります。黒3のコウダテに白4とワリ込み、黒5のコウ取りには白6と連打します。白8までのフリカワリの結果は、双方打てるとの結論です。



12図

12図（これもある）
 黒3のコウ取りに白4と我慢する手もあるでしょう。黒1、白2という損な交換を打つてくれたからです。黒5に白6と右辺にヒラいて、白に不満のない進行です。場面図黒12に対しては、4図の白1と受ければ白が十分に戦えます。